



地域のちからで
ぼたるまつり

(13 ページ参照)

【6月会議】

補正予算	2
町政をただす〈一般質問〉	4
議会懇談会・行政視察	13
輝く皆さんの声〈キラキラ Voice〉	14

物価高騰 支援を

6月 会議

補正予算

令和7年浦谷町議会定例会6月会議

↓18日(水)、19日(木)、20日(金)に開催

条例一部改正など議案13件

↓全て原案のとおり可決

一般質問 ↓ 8人の議員が町政をただした

一般会計 補正予算

〈一般会計補正予算（第2号）の主な内容〉

○ 5375 万円を増額
(歳出)

- ・ 中小企業エネルギー価格高騰対策支援事業費補助金 2490 万円
- ・ 企業立地奨励金 4105 万円
- ・ GIGA スクール経費 674 万円

*万円未満切り捨て

歳出質疑

総務管理費

企業版ふるさと納税
の物品寄付について

問

企業版ふるさと納税として電動キックボードを5台寄付されたが、その用途目的はどうか考えているのか。

答

休日の交通手段と
考えていきたいが、
安全面などの懸念がある
ため、まずは町職員が講
習を受けて利用をしてい
きたいと考えている。



LED防犯灯の設置
状況は

問

新下町浦北線にLED防犯灯8基設置予定だが、南側と北側に4基設置か。

答

北側に8基で、ゆうらいふからイオンスーパーセンターに向かつて設置する。

メンタルケア専門医
相談支援とはどのよ
うな内容か

問

専門医相談支援業務委託料とは、どのような内容か。また、事前相談ができる体制や、まわりに対する配慮は充分か。

答

職員の職場復帰に向けたメンタルケアの相談業務である。事

選挙費

選挙費増額の理由は

問

今回の増額の理由は、人件費等の値上がりによるものか。

答

令和8年度の住民基本台帳の標準化に伴う入場券の発行テストにかかるものである。

医療福祉センター費

追加発注の考えは

問

支障木の伐採業務を、健康の橋改修工事を請け負う建設会社に、追加で依頼する考えは。

答

今回は支障木の処分だけでなく、健康の橋改修は発注済みである。

農業費

害獣対策について

問

害獣対策で檻を何台購入するのか。また、何による被害が発

前対応として研修を含め検討していく。

生しているのか。

答 1台または2台購入予定。シカによる被害や、熊の目撃情報もある。

金のいぶきのPRについて

問 全日空の社員食堂用に金のいぶきを提供するということが、健康食材としてのPR等も含めての考えは。

答 そういったことも含めてPRしていく。現在、金のいぶきの供給が間に合っていないが、ターゲットが合うか検討しながら進めていきたい。

道路橋りょう費

道路整備・住宅修繕の減額について

問 道路整備・住宅修繕の減額が大きい。何か事情があったのか。

答 能登半島の復興に重点的に国の交付金が配分され、地震による影響が小さかった県に

対する配分が少なかったと聞いている。

保健体育費

農村環境改善センターの設備について

問 籠岳地区町民体育館照明灯について、もっと早めに対応できなかったのか。また、農村環境改善センターの洋式トイレを増やすべきでは。

答 切れている照明は、比較的片隅の方にあるが、暗いということ、今回の補正になった。トイレについては検討していきたい。

籠岳地区町民体育館の床の修繕は

問 籠岳地区町民体育館の床が傾いており修繕をすべきと話した経緯があるが、その後の検討は。

答 把握していないため、再度調査したい。

質疑

防災行政無線の更新について

問 防災行政無線の更新であるが、工事の内容がよく分からないので、カタログデータなどを開示して旧システムと新機種の性能の違いを知りたい。また、スピーカーの向きなど、できる修正是すべきでは。

答 IPでの送受信になり使いやすくなる。戸別受信機での対応も可能である。また、スマートフォンにもアプリを通して配信する。カタログは開示する。スピーカーの向きについては検討したい。



導入予定の戸別受信機

問 使えるものは使うとの説明だが、どの部分を更新するのか。アンプをIP式に更新する。

一般会計補正予算

〈一般会計補正予算(第3号)の主な内容〉

○ 2291 万円を増額
(歳出)

- ・ 子育て世帯家計支援 1人7kg米支給 …… 609 万円
- ・ 民間保育園食材料補助 …… 432 万円
- ・ 町道災害復旧費 …… 1060 万円

*万円未満切り捨て

歳出質疑

民生費

米の支給について

問 涌谷町で米の支給とは。その経緯は。米不足の不安解消と価格高騰負担軽減

6月会議採決状況 ○…賛成 ×…反対

議長(大泉治)は可否同数にならない限り採決に加わりません。

件名	一條裕太郎	二上光子	黒澤朗	佐々木敏雄	佐々木みさ子	稲葉定	只野順	後藤洋一	伊藤雅一	杉浦謙一	門田善則	竹中弘光	大泉治	議決結果 (全て可決)
工事請負契約の締結について	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	—	賛成・反対 (11:1)
令和7年度涌谷町一般会計補正予算(第3号)	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	—	賛成・反対 (11:1)

問 減の観点からである。何種類かの支給物の選択肢は考えられないのか。必要なものを支給すべきでは。

答 迅速な支援のため米の支給となった。

6月会議では、6月18日と19日に一般質問が行われ、8人の議員が町政について質問をしました。

掲載されている質問と答弁は、質問した議員が要約し、広報分科会委員が調製したものです。

町のホームページでは、動画の録画配信を行っていますので、そちらもぜひご覧ください。

涌谷町ホームページ URL
(<http://www.town.wakuya.miyagi.jp>)



いちじょうゆう た ろう

一條 裕太郎 議員 (5 ページ)

- ① 子供たちを取り巻くさまざまな環境の変化について
- ② 町立幼稚園施設閉園後の施設の利活用について

いな ば

さだむ

稲葉 定 議員 (6 ページ)

- ① 農業（特に稲作）の活性化に必要な政策は何か

に かみ

みつ こ

二上 光子 議員 (7 ページ)

- ① ヤングケアラー・若者ケアラーの支援体制について
- ② 障がい者と共に安心して暮らせるまちづくりについて

さ さ き と し お

佐々木敏雄 議員 (8 ページ)

- ① 町長の残任期間は2年弱であるが、今後、力点を置いて取り組む施策について問う
- ② 都市計画区域と農業地域整備振興計画区域との重複区域の考えについて問う

さ さ き

こ

佐々木みさ子 議員 (9 ページ)

- ① 農業と食の対応について

も ん で ん

よしのり

門田 善則 議員 (10 ページ)

- ① 簗岳地区の今後について問う

ご と う

よういち

後藤 洋一 議員 (11 ページ)

- ① 令和8年度で満了となる、第6次涌谷町行政改革大綱及び行政改革推進計画の検証・見直しの考え方について問う
- ② 涌谷町国民健康保険病院経営強化プランについて問う

すぎうら

けんいち

杉浦 謙一 議員 (12 ページ)

- ① 今後の国民健康保険の状況は
- ② 利用しやすい地域公共交通の実現を

ズバリ

町政をただす

一般質問

一般質問とは、議員が町の行財政全般にわたり、事務の執行状況や将来に対する方針などについての考えを問い、報告や説明を求め、よりよい方向へ導くものです。



問 子供たちを取り巻く環境の変化を問う

答 できる限り支援していく

問 スクールバスの運行ルートの再検討の進捗状況を伺う。また、有識者として保護者の代表者（PTA役員）などからの意見は加味されているのか。

教育長 大きな変更はしていないが、現在、企画財政課が検討を進めている、涌谷町地域公共交通計画における町民バスの活用について、情報共有を図り、安心安全な通学手段の確保を継続していきたいと考えている。

問 涌谷町として既存のスポーツ少年団等に対する支援策や、部活動の地域移行への対策案を問う。

教育長 涌谷町では、様々な地域活動の入口を体験できる地域活動体験交流事業を開催することとしている。今後、地域移行に伴い、休日時間等を利用して、生徒達が主体的にやりたいと思う活動ができる限りサポートできるように考えていく。

問 幼稚園閉園後の利活用について

答 普通財産にした後、利活用や売却を積極的に推進していく

問 来年度閉園する町立幼稚園3か所を、再利用する考えはあるのか。

町長 現時点での利活用方法は、まだ定まっていない。制度上、現在は教育財産であり、教育委員会で教育財産から外したのち、町長部局に移管し、利活用、又は処分するものとなる。基本的には余剰財産となつた資産については、売却等の処分を進める方針であり、価格についても、場合によっては実勢価格から引き下げることも検討する必要があると考えている。余剰財産を早く処分することで、財産管理に係る見えない経費を抑えることができ、売却

後の使用状況によっては、税収の増加も見込まれることから、町としては積極的に推進していく。



ののだけ幼稚園



涌谷南幼稚園



涌谷幼稚園

これも質問しました

問 涌谷町の特産物の強化と今後の在り方について

問

農業(特に稲作)の活性化に必要な
政策は何か

答

消費者との連携を深める



問

昨今の米穀流通に
関して生産者、消
費者双方が翻弄されてい
る状況だ。米の生産体制
が大規模化と法人化で解
決するという論調が先行
しているが、どう見てい
るか。私は中山間地の圃
場が多い日本と、平地の
多い海外の事例とは同列
には考えられないと思う。
また、若者の就農が進
まないのはなぜか。

町長

圃場整備が進み、
経営規模の拡大
が進んでいる。更に離農
が進めば受け手側の能力
を上回ることになる。兼
業農家などにも担っても
らわなければ全体が持た
ない。また、稲作以外の
作物にも着目して、利益
の出る経営体になれば若
者の就業につながると期
待している。

問

消費者と交流を深
めて安全安心な農
産物を供給する役目を生
産者が自覚するべきだし、
稲作文化は集落の維持に
も大いに貢献している。

一般質問

様々な農業団体もいろい
ろな面でその役割以外で
も貢献している。このよ
うにして維持してきた農
村文化を簡単に変えられ
ては、我々が支えてきた
ものは何だったのかと思
う。町でできることは予
算を多く使うことではな
く、近隣の市、町と連携
して、国、県に揺るぎの
ない食糧の需給確保を制
度化してもらう要望をし
てほしいが。

町長

特別栽培米も重
要な取組だが、
町では給食に取り入れて
いる。地域文化や集落の
維持活動、消費地との交
流を深め、お互いが信頼
できる絆を作っていく。



籠岳地区の水田地帯



問 ヤングケアラーへ早期の支援体制を

答 重層支援体制事業の中に盛り込む

問 当町の実態把握や相談しやすい窓口の取組はどのように行っているか。子ども期から若者期へ教育と福祉の連携で支援体制をする考えはあるか。

町長 ヤングケアラーへのアンケート調査は実施していないが、策定中の子ども計画に盛り込む予定である。要保護児童対策地域協議会において、数名を把握しており、継続して見守り支援をしている。また、委託しているNPO法人が食材を届ける際に、問題などを行政へつないでいる。今後、重層的支援体制整備事業の中に、ヤングケアラーへの支援も盛り込んでいく。

問 障がい者が安心して暮らす環境を

答 民間と一緒に生活環境を整えたい

問 障がい者が働きやすい環境の整備として、公共施設のバリアフリー化を計画的に実施し、就労移行の事業所の開拓などの推進や、地域で安心して暮らすためのショートステイ施設・グループホームの拡充支援をする考えはあるか。また、障がい児への放課後等デイサービスに取り組む考えはあるか。

町長 役場の障がい者雇用は、法定雇用率を達成している。バリアフリーについては、整っておらず、施設の改修など担当課と検討していく。グループホーム等の住環境は、これまで民間主導で行ってきた。居場所づくりは重要であり、今後は民間と一緒に支えていきたい。





問 残任期間 2 年弱・取り組む施策は

答 愛着と誇りを持つまちづくりを

問

令和 6・7 年度の当初予算には、町長の意向とする施策や目玉事業が組み込まれていない。残任期間が 2 年弱、肝入りの施策や事業は何か。

町長

町民が愛着と誇りを持つことができるまちづくりを推進する。

問

前町長の思いを引き継いだ遠藤町長、最重要課題は財政再建計画の達成と黄金山工業団地への企業誘致であったと思っているが。

町長

黄金山工業団地以外に大企業を誘致した。ほかにも撤退予定の企業を食い止めた実績がある。

問

黄金山工業団地は名称から、製造業事業所が対象のイメージが強い。業種にとらわれないで、他業種にも交渉すべきと思うが。

一般質問

町長

広範な業種にも交渉は行っている。



製造業以外の業種も誘致可

問

都市計画から農振計画除外の考えは

答

両計画は重複は可能・支障はない

問

都市計画区域内の土地改良事業対象外の農用地を農業振興地域整備計画から除外することの考えは。

町長

都市計画区域と農業振興地域の重複は可能であり、支障はない。

問

都市計画区域内は都市計画が優先と思う。都市計画区域内には町民の 7 割が居住している。都市計画審議会の意見を聴いて、都市計画区域内のマスタープランと農振計画とのすり合わせが必要と思うが。

建設課長

総合計画との整合性を図り、新マスタープランが必要な検討と、必要時には



7 割が居住・都市計画が必要では

これも質問しました

問

廃校解体に有利な財源があるが



問 米の安定供給に対する町の考えは

答 継続して農家を支援していく

問 コメの価格高騰、品薄の状況に対する町の考えは。

町長 涌谷地域農業再生協議会に提出

されている作付計画の集計によると5月末現在で、183ヘクタールが水稲作付け超過となる。国の備蓄米の放出もあり、品薄感解消されると思う。米価高騰は続くとは考えにくく、農家所得の確保を第一とし、継続して支援していく。

問 安心・安定したコメ作りができる環境整備を町としてどう対応していくのか。

町長 圃場整備を町内3地域で行い、

水利施設整備や「多面的機能支払交付金」も含めて、1億5千万円の予算措置をしている。関係機関と協力して消費拡大、水稲の高温耐性品種の確保など、農業者が生産しやすい環境整備をしていく。

問 町として、食に対して更なる醸成を図っていく考えはあるのか。

町長 給食や健康教室を通じて、地元

食材を次世代へ継承し、食育の推進で健康づくり・人づくり・地域づくりにつなげていく。



分けつ中の稲



安定した米の供給を



問 簗岳地区の今後について問う

答 新しい事業を取り入れ歯止めをかけたい

問 人口減少をどう食い止めるのか。

町長 人口減少は、簗岳地区だけの問題ではなく、町全体の課題となっている。町としては、今後生活しやすさを求める方々や、涌谷で新しいことにチャレンジしてみたいという方々を受け入れることで、移住・定住につながり、人口減少問題に対応できるものと考えている。

問 農家の担い手不足をどうするのか。

町長 担い手を確保する際、経営継続できる所得確保が最優先である。町としては、生産組織を法人化し、雇用を確保し、若者が毎月給料をもらえる、社会保険に加入できる体制整備を推進していく。

問 地区コミュニティをどう守るのか。

一般質問

町長 自治会が大きな役割を担っているものと考えており、自治会活動に対し補助金を交付している。地区のコミュニティ活性化を図っていただけばと考えている。



簗岳地区町民体育館周辺



行政改革大綱及び行政改革推進計画の検証は

指定管理制度について今後も検討していく

問

行政改革推進計画の中に民間との協力や連携の推進、共に支えあう町づくりの項目に、民間活力による町民サービスの向上と、施設運営の効率化を図るため、指定管理対象施設の制度導入を目指すところがあるが、現状どのような検討をしているのか。また、残された期間で、今後どのような取組を進めようとしているのか。

町長

現在、指定管理者制度を導入している施設は、9施設あり、8団体と指定管理に係る協定を締結している。指定管理者に管理を行わせることができる施設は14施設あり、60%以上の施設で活用している。今後、施設の改修や改築などと合わせて、導入を検討していく。

問

第5次行政改革大綱の達成率が低かったことを踏まえて、第6次行政改革大綱を打ち出したのか。また、第

5次総合計画の後期計画のプロジェクトチーム

と、新たな行政改革大綱のプロジェクトチームは別なものなのか。

総務課長

システム導入など経費の掛かるものは進まなかったが、ソフト面では達成した項目もあり、それらを継承しつつ第6次行政改革大綱を策定した。プロジェクトチームについては、状況に応じて随時立ち上げるものであり、今後、課題解決が必要な場合は、新たに立ち上げを考える。

問

国保病院経営強化プランについて

答

経営形態の見直しは考えていない

問

経営強化プランの中で、医療需要や経営状況の大幅な変化があった場合において、地方独立行政法人や指定管理制度への移行等、経営形態の見直しを検討するところがあるが、現状と今後の考え方について問う。

町長

病院経営について、ここ数年は経営利益を計上しているが、人口減少に伴う患者の減、人件費や物価高騰に伴う費用の増加や、施設の老朽化により厳しい状況が続いている。現段階では、町の考えや施策がダイレクトに反映できる直営での運営が最も良いと考えており、民間への事業譲渡や指定管理制度の導入は考えていない。

問

地域医療構想が制度化され、今後は、病床の削減や機能転換も考えながら進めていくべきでは。

センター長

町民の皆さんが何を望んでいるか推察しながら、病院の経営と在宅医療の充実という車の両輪をうまく動かしていきたい。



問 国民健康保険の状況は

答

県内統一の際、国保税引き上げが懸念される

問 宮城県では、国民健康保険税について、税率の統一はどのような段階であるのか。

町長 令和12年度からの完全統一を目標としつつ、遅くとも令和15年度までの実現を目指すことで、全市町村と合意している状況である。今後、完全統一に向けた新たなロードマップに沿って県と協議を進める。

問 今後の徴収等、国民健康保険のあり方についての考えは。

町長 県内統一に際し、独自の税率引き下げはできなくなるなど、様々な課題がある。県が算出した標準保険料率に基づくと、国保税の引き上げが懸念される。

一般質問

問 利用しやすい地域公共交通の実現を

答 計画に基づき、検討していく

問 現在、設置されている地域公共交通会議について、どのような議論を進めているのか。

町長 公共交通計画において、解決策の一つとしてタクシール成事業導入を検討するこ

ととしている。助成に当たっての財源措置等も考慮しながら、慎重に検討していく。

町長 昨年度、アンケート調査や利用者への聞き取り調査を行い、「涌谷町地域公共交通計画」を策定した。6月から町民バス笹岳山線のマイクロボスをワゴン車にダウンサイジングを実施したほか、利用しやすい路線再編・ダイヤ改正など検討を進めている。

問 高齢者が安心して利用できるタクシール成事業や福祉タクシール利用の際、助成事業の考えは。



ワゴン車導入

それぞれの地域の声を町政へ

行政区長の皆さんと議員との

懇談会

7月2日(水)、涌谷町役場大会議室で行政区長の皆さんと議員との懇談会を開催しました。

令和7年3月会議について報告した後、「これからの地域づくりについて」というテーマで、行政区長の皆さんと情報交換や活発な意見交換をすることができました。誠にありがとうございました。

皆さんからいただいた意見やアンケートの結果については、後日涌谷町のホームページに掲載します。



行政視察レポート

議会活性化調査特別委員会小委員会では、政治倫理条例の制定に向けた検討を進めています。

公正で健全な議会運営のためには、ハラスメント防止も重要な課題であると考え、今後の条例制定の参考とするため、5月15日から16日まで、先進的な取組を行っている埼玉県寄居町と川越市を視察してきました。

視察事項

寄居町議会においては、議員のなり手不足や女性議員を増やす対策として、いち早くハラスメント防止条例を制定している。

川越市議会においては、実際に発生したハラスメント事案を受けて、早急な対応としてハラスメント根絶条例を制定し、その後政治倫理条例の策定に取り組んでいる。

特に、川越市においては、政治倫理条例の策定までに35回もの会議が重

ねられており、議員の政治倫理の在り方を定めることの難しさを実感したところである。

まとめ

政治倫理条例は、議員としての行動規範であると同時に、議員の立場を守る条例でもある。

涌谷町議会においても、今回視察を行った両議会を参考に、条例制定前に実施したというアンケート調査等を実施し、本町議会にふさわしい政治倫理条例、ハラスメント条例の制定に向け、議論を進めていく。



寄居町での行政視察



川越市での行政視察

表紙写真について「第12回ほたるまつり」

黄金自治会のほたるまつり実行委員会が主催し、日頃から、ほたるが舞う自然環境を守るため、地域住民が保護整備に取り組み、6月28日、第12回を数えた祭りには、県内各地から約400人が来場。当日は、勇壮な涌谷太鼓・澄んだ音色のオカリナ演奏が会場を彩り、黄金山にほたるの光が舞い、子供たちの歓声が響き渡る大盛会の開催でした!!

わくや Voice vol.33



株式会社ウェルファームフーズ
宮城事業所執行役員事業所長
村上 義男さん

Q あなたのことを教えてください。

A 株式会社ウェルファームフーズ・宮城事業所において
宮城県産鶏肉（森林どり）の飼育・加工処理全般の仕事に携わっています。

Q 議会についてどう思いますか。

A 涌谷町民に寄り添った議会活動のみならず、地元企業にも惜しみなく力添えを
いただける、非常に頼もしい存在です。

Q 涌谷町をどういう町にしたいですか。

A 昨年の新工場稼働から、本年5月31日で無事に1周年を迎えることができました。
ひとえに涌谷町民の皆様のご支援とご協力があったからこそだと感謝申し上げます。
これからも涌谷町発展のために、微力ながら尽くしてまいります。

議会から

株式会社ウェルファームフーズ社は、令和6年5月に操業を開始した「森林どり」
でおなじみの食肉加工販売企業です。地域活動にも積極的に関わっており、今後
も官民連携のもと涌谷町の発展に取り組んでいただきたいと思います。

議会を傍聴

しませんか

次回の定例会議は

9月11日から

開催予定です

詳しい日程と一般質問の
内容は、後日ホームページ
でお知らせします。

詳しくは、議会事務局に
お問い合わせください。

☎43-2127

涌谷町議会の本会議な
どをパソコンやスマー
トフォンで見ることが
できます。

議会では、議会の内容を
動画配信サイト「You
Tube」で生配信してい
ます。

各議員の一般質問の内容
も動画配信しています。左
下のQRコードからご覧
ください。



編集ろまん

わくや
だより

7月2日に行政区長会
との懇談会を行いました。
西地区からは太陽光パ
ネル設置後の管理徹底
や内水排除問題と行政区
域の見直し、東・寛岳地
区からは、城山・下町区
の内水排除関連の問題や、
幼稚園統合によるさくら
んぼこども園からの避難
路整備状況などの意見が
ありました。水害に対す
る心配の意見がどの地区
からも出ています。
今日、尋常でない降雨
災害が毎年のように発生
しています。国県への早期
働き掛けは元より、近隣、
下流地域自治体との協議
も必要と思いました。

(佐々木敏雄)

編集 広報広聴常任委員会

広報分科会

分科会長 佐々木 敏雄

副分科会長 一 條 裕太郎

委員 竹 中 弘 光

委員 稲 葉 定 朗

委員 黒 澤 光 子

委員 二 上 光 子